



「予想だにできなかった状況」という言葉は、正しいか

死者・行方不明者200名を超える大きな災害となった今回の西日本豪雨。自然災害の厳しさと悲惨さを嫌というほど思い知らされます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、かけがえのない人を奪われたご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、日常生活を奪われ、悲しみの中にある被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

「予想だにできなかった状況が起きてしまった。」「想定外の災害。」という言葉を耳にします。その土地に生活する住民にとっては、確かにそうなのでしょう。しかし、行政の立場となると、それでは済まされません。命と財産を守るという重大な使命を担っていく以上、その現実や背景から目をそらすことはできないのです。

この機関紙を作成する間も、被害の大きさがニュース映像に流れてきます。今回の質問が「笙の川整備」という、私たちの生活と水害に向き合うものであるだけに、現在の状況下で躊躇するところもあるわけですが、強い気持ちをもって、臨みたいと思います。

平成30年度6月 補正予算 3億7,739万円増額

合計 569億793万1千円 (対前年度同期伸率 +1.5%)

主な事業

○市民文化センター改修事業費 1億8,637万9千円

市民文化センターの来年4月の指定管理者導入に向け、老朽化した外壁、音響設備の改修工事やトイレの洋式化を進めるもの。

○町界町名地番整理事業費 1,757万2千円

区からの要望を受けて、市野々町1・2丁目の町の区域及び名称を新たに設定し、町界町名地番整理を行うことで、混在している大字を統一して、住所表記に混乱や支障をきたしている状況を解消するための事業。

○庁舎立体駐車場整備事業費 1,606万3千円

新庁舎建設期間中、来庁者駐車場が著しく減少することから、市民の利便性を考慮して、先行して立体駐車場の実施設計を委託していくもの。庁舎別館などを取り壊した敷地南西側に整備する。3階建てで88台収容し、来年8月の完成を目指す。

○庁舎建設基本設計計画策定等事業費 1,362万8千円

新庁舎での地中熱利用可能性調査等の基礎調査業務

○コミュニティバス運行事業費 1,043万2千円

昨年10月から路線及びダイヤを再編して試験運行を行ってきました。その利用実績やアンケートの結果を踏まえて、11月からの本格運行に係る必要経費

笙の川水系河川整備計画

県の笙の川整備のベースとなっているのは「笙の川水系河川整備計画」です。その中には、明確に「笙の川で破堤氾濫が生じた場合、甚大な被害が生じることは容易に予想される。このため、地域住民に安心・安全を与えるため治水対策が急務となっている」「河道内の堆積土砂や植生に対して適正な管理を行う必要がある。」とあります。計画から10年近く経過した今、どのように具体化されているのでしょうか。いろいろな働きかけをしてきたことは確かでしょう。しかし、目に見える形で達成されたものが余りにも少ないように思えて仕方ありません。

この整備計画は平成21年に設定されたものです。その内容について、再検証すべき部分はないのでしょうか。年々異常気象によると思われる突発的な豪雨と線状降水帯といった異常な降雨がみられる中で、下記の流下能力は有効なのでしょうか。目標値は適正であるとの答弁でしたが、釈然としないものが残ります。

	目標とする流下能力	現在の流下能力	過去の降雨
笙の川	1/50の流下能力 つまり、50年に1回程度発生する降雨（による流量）に対処 950 m ³ /s 降雨時での 数値でいうと 200mm/日	1/10の流下能力 つまり、10年に1回程度発生する降雨（による流量）に対処 約470 m ³ /s 降雨時での 数値でいうと 151mm/日	① H25.9.15～16 215mm/24時間 ② H29.8.7～8 203mm/24時間 ③ H29.10.22～23 169mm/24時間

私たちに分かりにくいのは、氾濫等に大きく関わるのは、一日の降雨量ではなく、その降り方なのだという点です。理事者の表現を借りるならば、

※「おおむね10年に一度発生する降雨である151ミリ、これが計画降雨量ということで、これを踏まえ、過去の降雨のデータをもとに河川の流量が最大となる降雨パターン、ようするに雨の降り方、これを計画降雨としているということ。単純に151ミリを超えたからというわけではなく、降り方というのが非常に重要になってくる。」となります。少なくとも、6時間雨量とその継続状況を把握していかなければならないのでしょうか。いずれにしても、その数値を超える降雨の可能性はかなり高いということです。

安全確保

今や、地域住民の不安は、台風シーズンだけの話ではなくなってきました。強い雨が降る度に安全と・安心が脅かされる生活をしなければならないとするならば、先に述べた生活権・生存権、県や市の方針として掲げられている指針が揺らいでしまうこととなります。住民の願いは、明日の不安を取り除くことなのです。

明日の不安を取り除くという点では、市民説明会の中でも、浚渫（しゅんせつ）、河床掘削を求める声が多くありました。浚渫は住民の目に見える大きな取り組みであるのは言うまでもありません。これまでの浚渫にかけてきた予算と浚渫量は下記の通りですが、

	平成25年	26年	27年	28年	29年	5年間合計
浚渫予算	890万	3962万8千	425万4千	1519万6千	1388万9千	8086万7千
浚渫量	1,200m ³	1万700m ³	1,480m ³	7,400m ³	3,570m ³	2万4350m ³

これが、どれだけの意味を持ったものであるのかどうかは、理事者や県を信頼するしかありません。ただ、市民の目に見える効果がほしいと強く感じます。

来迎寺橋の改築

先日、最も危険であると判断されている河川改修事業（市道149号線来迎寺橋改築）の説明会が持たれました。長年の住民の願いでもあった架け替え工事に着手していただくことは、そのまま地域住民の安全・安心確保につながるものであり、大きな成果であると考えます。しかし、物事には、最後の最後の詰めを間違えたために大きな悔いを残すことは往々にしてあるものです。一日も早く、少なくとも今年の台風シーズン前には、現来迎寺橋撤去を確実に進めていただきたいと強く要望しました。これに対して、今年、出水期（10月まで）は難しいとの答弁でしたが、それは即ち、「今年も日々の不安に耐えろ。」ということになります。撤去だけでも出水期までに実施できないのか。また、上部工だけでも実施することを再度要望しました。



今こそ、一日も早くという住民の声をしっかりと県に対して伝え、アクションを起こしていくべきなのだと思います。

ここで大切なのは、これは笙の川水系整備のほんの一コマであるということです。確かに、来迎寺橋の改築は来迎寺橋地点での漂流物の引っ掛かりによる氾濫の危険度は低くなるものの、笙の川全体の流下能力に対する不安は、まだ払拭されません。住民としてみると、いつ発生するかもしれない極地的な豪雨に対する不安を感じます。浚渫が少しでも効果があるならば、それが数か月で元の姿に戻ってしまうものであったとしても、すぐに行動してほしいという強い思いは、当然のことであると考えます。

河口の堆砂への対応

現在の河口の状況は、市民の誰もが不安を増大させます。どんなものでも、出口が狭まり流れが停滞したならば、安定した流れが損なわれていくことは常識であると考えます。

現在の河口の状況をどのように分析しているのか伺いました。*1

今回の事業は河口部の流下能力維持が最重要課題です。福井県土木部において河川課と港湾課の協議はどれ位進んでいるのか、笙の川の安全治水に影響はないのかが一番不安な部分です。*2

豪雨が来れば、押し流されるとする考え方は、逆に言うとそれだけ河口に流圧がかかっていることになるのです。ここに、豪雨を待たなければ解決できないとするならば、大きなリスクを抱えることに繋がるのは明らかです。そもそも河口の滞砂の状況は、何が原因で生まれてきたものなのでしょう。*3 これらに対しては、

- *1 「現在の堆砂は港湾区域に形成されており、河川の流下能力に影響を及ぼす可能性は低いと考えられる。」
- *2 「しゅんせつには、福井県港湾事務所において、船がスムーズに航行できることを目的として行っている。航路に対して影響がある場合は適切に対応していく予定と聞いている。」
- *3 「県のほうに確認をしましたところ、離岸堤が設置される以前より堆砂が生じていると理解している。なお、土砂が堆積される要因につきましては、現在実施している土砂動態堆積調査によって究明していく。」

とのことでしたが、いずれも「県が管理で。県からはこのように聞いている。」という部分がもどかしいところです。

※ここに書ききれない部分は、ホームページ内の「6月議会を終えて」に詳細に記してありますので、是非ご覧ください。

活動の足跡(4月・5月・6月)

4月 5日 広報広聴委員会
 9日 敦賀市教職員組合総会に列席
 10日 文教厚生常任委員会
 11日 嶺南地協議会報告会に列席
 13日 議員研修会
 16日 FC(水素エネルギー)バスへの試乗
 19日 県教職員組合支部長・書記長会
 24日 都市計画審議会参加
 28日 嶺南メーデーフェスティバル参加
 5月 1日 中央メーデーに参加
 4日 嶺南吹奏楽祭に参加
 8日 模擬議会報告会
 国体実行委員会総会参加
 13日 親子フェスティバル参加
 14日 広報広聴委員会
 19日 駅周辺整備意見交換会参加
 22日 新幹線特別委員会現場視察+委員会
 23日 議会報告会
 24日 文教厚生常任委員会所管事務調査
 25日 敦賀港整備促進期成同盟会参加
 市庁舎建設特別委員会参加
 議員説明会

26日 小学校体育大会
 27日 敦賀三方消防組合消防大会に列席
 28日 来迎寺橋改築地元説明会参加
 29日 6月議会告示
 市庁舎策定委員会参加
 西地区区長と語る会
 31日 2つの促進期成同盟会総会
 敦賀美浜地域開発協議会総会
 6月 2日 県教職員組合定期大会に列席
 市内中学校体育大会
 5日 6月議会開催(～6/26)
 6日 病院支部定期大会に列席
 8日 県教組退職組合員慰労激励会
 13日 市庁舎市民説明会参加
 14日 一般質問(北川)
 16日 牛腸祭参加(気比神宮)
 17日 西地区体育大会
 24日 市民吹奏楽団ファミリーコンサート
 25日 F-TOP21 時局講演会(寺島実郎氏)
 27日 退職教職員会50周年記念式典
 28日 消防組合議会臨時総会
 29日 2つの期成同盟会と総会参加
 30日 キハ28形内覧会

「水を制する者は、国を制する」

人体全体にびっしり張り巡らされている血管。これらの血管をすべて合わせると、全長で、10万キロメートル。地球の赤道を、2周半できる長さになるという。おかげで、手足が動き、脳が働くという。まさに素晴らしい体の神秘である。

日本全土の河川を表した「気象庁の洪水危険度分布の河川地図」を目にして、そんな人体毛細血管の図をイメージした。

小さな国土にして、七割が山岳と言われている日本にとって、川がまるで人の毛細血管のように張り巡らされていることに改めて気づかされる。

血栓や溜によって、血管の流れがさえぎられることが命にかかわると同様に、何らかの原因で河川の流れが滞った時の怖さを改めて感じる。

水害や干ばつによる被害は、経済発展と社会秩序の安定にとって重要な影響を及ぼす自然災害である。これらを克服してはじめて、農業収益の確保、国民生活の安定、天下太平、国家繁栄をもたらすことができる。

「水を制する者は、国を制する」この言葉を改めて噛みしめざるを得ない。

TUTTIはどうしても私の活動報告が中心となります。一般質問の詳しい内容は、ホームページに掲載させていただいております。(右のQRコードをご利用下さい。)年4回発行されている「市議会だより」では、市議会全体の様子が紹介されていますので、是非併せてご覧下さい。いろいろなご意見をいただければ幸いです。



発行責任者 市民クラブ

編集責任者 北川 博規

E-mail h.kitagawa131@gmail.com

ホームページ <http://kitagawa-hiroki.net/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/hiroki.kitagawa.754>

敦賀市津内町1丁目12-10 TEL. 090-1319-6667 FAX. 0770-22-4121

この議会だよりは、一部政務活動費で発行しています。